

# 正しい知識で予防する ペットからうつる感染症

## 身近な動物からうつる感染症を知りましょう

動物由来の感染症としてよく知られているものには、鳥インフルエンザや狂犬病などがありますが、ここでは、身近な動物（ペット）からうつる可能性がある主な感染症について紹介します。

### ★イヌやネコからうつる

#### パストレルラ症

**主な症状** 局所の疼痛、化膿、呼吸器感染症

**Memo** 健康なイヌやネコの口の中に存在する菌により、動物に咬まれたり、ひっかかれたりすることによって感染する。

### ★ネコひっかき病

**主な症状** リンパ節の腫れ、疼痛、発熱

**Memo** 健康なネコやイヌの口の中に存在するバルトネラ菌が原因。咬まれたり、ひっかかれたりすることにより感染。咬傷後、数週間してから症状がでる。

### ★小動物からうつる皮膚糸状菌症

**主な症状** 円形発赤、水ぶくれ

**Memo** 無症状、あるいは円形脱毛、かゆみのあるウサギ、ハムスター、イヌやネコを抱いたり接触すると感染する。

### ★オウム病

**主な症状** 発熱、咳、肺炎、筋肉痛

**Memo** オウム、インコ類に食欲不振、下痢、羽毛逆立が見られる。糞便の乾燥飛沫を吸入したり、咬まれたり、食べ物を口移しで与えて感染する。



**\*過剰な接触を避ける**  
ペットとは友達と同じような距離感で接しましょう。友達とは過剰なスキンシップをしないように、ペットとも

**\*清潔を保つ**  
ペットの爪を短く切ったりブラッシングしたりするなど、こまめに手入れをして健康状態をチェックしましょう。

ペットとの関係がより密になるほど問題となるのがペット由来感染症です。「自分のペットは大丈夫」と油断してしまいがちですが、動物が健康体で無症状の場合でも病原体を持っている可能性があります。知らないうちに飼い主が感染してしまう場合があります。



### ペットとの付き合い方は 友達のような距離感で

ペットについても伝えましょう。ペットとの安全な生活を築くために、ペット由来の感染症について十分な知識を持つことが重要です。

### \*手を洗う

ある程度の距離が必要ですが、口移しで食べ物を与えたり顔をなめられたりといった濃厚な接触は、動物の口の中に存在する病原体に感染するリスクを高めます。

### \*そのほか

乾燥した排泄物や羽毛などが室内に飛散する可能性があるため、台所や寝室でペットを飼わないでください。また、アウトドアや行楽先では、野生動物との安易な接触を避けましょう。神経質すぎる対応をする必要はありませんが、ペットは衛生概念がないので、飼い主が正しい知識を持って予防に努め、大切なペットと安心して快適な生活が過ごせるようにしましょう。



### ペットとの密接な関係で 高まる感染リスク

ペット由来感染症は、ペットが保有している細菌やウイルス、寄生虫などの病原体が、人の体に入り感染する病気です。病原体の侵入経路はさまざまです。病傷や引っかき傷、乾燥した排泄物の飛沫吸入、虫卵を含む糞便を触り、その手を口に持っていくなどの直接的な感染のほか、ノミやダニ類などが媒介する間接的な感染もあります。清潔に暮らしているつもりでも、動

物との過度な触れ合い、たとえば、口移しや自分の箸やスプーンで食べ物を与えたり、一緒に布団に寝たりすることにより感染のリスクが高まります。ひと昔前までは、動物は屋外で飼われていましたが、少子化、高齢化が進み、核家族が増え、気密性の高い集合住宅などの屋内でペットが飼われる割合が高くなりました。そして、ペットは家族の一員や人生の伴侶として、人間同様に扱われるようになってきました。そのようなペットをコンパニオンアニマル（伴侶動物）と呼んでいます。

ペットとの関係がより密になるほど問題となるのがペット由来感染症です。「自分のペットは大丈夫」と油断してしまいがちですが、動物が健康体で無症状の場合でも病原体を持っている可能性があります。知らないうちに飼い主が感染してしまう場合があります。また、健康な人にはうつらなくても、乳幼児や高齢者、糖尿病などで免疫力が弱くなっている人には感染し重症化する場合があります。体調が悪くなったら、ペット由来の感染症の可能性もあるので、速やかに医師の診察を受け、

ペットから人にもうつる感染症（ペット由来感染症）は増加傾向にあります。この背景には、住環境や家族構成の変化によって気密性の高い屋内でペットと過ごす時間が増え、ペットとの距離や関わり合いが密になったことがあげられます。このようなペット由来感染症は、動物との正しい付き合い方で予防できます。感染症について十分な知識を持ち、ペットとの暮らしをより安全で楽しいものにししましょう。

## 監修



埼玉県 みずほ台動物病院院長  
沖縄県 琉球動物医療センター院長

兼島 孝先生  
(かねしま たかし)

●略歴  
1988年、北里大学獣医学科卒業。1988年、東京大学大学院研究生獣医外科学教室に所属。1991年、埼玉県富士見市にみずほ台動物病院を開院。2007年、北里大学大学院にて共通感染症の研究で獣医学博士授与。2007年、沖縄県豊見城市に琉球動物医療センター開院し現在に至る。日本獣医循環器学会理事、獣医循環器認定医。小動物外科専門医協会理事、狂犬病臨床研究会理事、日本比較臨床医学学会評議員などを務める。著書に『ペットを感染症から守る本』（アニマル・メディア社）。